

[抄録様式]

<p>財団法人 8020 推進財団 平成 22 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録</p>
<p>1. 事業名: 唾液検査をもちいた中学生に対する歯肉炎対策と実践 -エビデンスに基づいた思春期歯科保健教育の構築について-</p>
<p>2. 申請者名: 県立広島大学 佐藤公子</p>
<p>3. 実施組織: 三原市歯科医師会(坂内大造・皆川幸俊), 県立広島大学 保健福祉学部(平本伸子), 三原市保健センター(住廣香里)</p>
<p>4. 事業の概要: 1) 唾液による歯周疾患検査実施の確立と評価 -集団と個人に対する保健活動の展開- 2) 歯周疾患予防から全身の健康維持に関連する歯科保健活動の展開</p>
<p>5. 事業の内容: う蝕と歯周病の検査結果を取り入れた集団・個人への歯科保健指導の方向性を検討した。調査対象は、A 市の小規模中学校 3 校の 1-3 年生 227 名(男子 108 名、女子 106 名 参加率 88.3%)である。実施期間は平成 22 年 11 月～平成 23 年 6 月である。 1) 唾液による歯周疾患検査実施の確立と評価 情報判断の結果を取り入れた集団・個人への歯科保健指導の検討と継続的に学校歯科検診に唾液検査を取り入れるためのコストや所要時間の検討 2) 歯周疾患予防から全身の健康維持に関連する歯科保健活動の展開 唾液検査を通して歯周疾患に対する関心を高める 家族に対する口腔衛生に関する啓蒙啓発活動</p>
<p>6. 実施後の評価(今後の課題): 1) 唾液による歯周疾患検査実施の確立と評価 1 人平均う蝕経験歯数は 0.7 本であった。しかし、う蝕リスク検査ではハイリスクの生徒が全体で 22.2%、歯周病検診総合判定の要指導と要医療の生徒の割合は 29.9%であった。本研究では、小規模中学校 3 校に 3 回(11 月・5・6 月)検査を行ったが実施時期は、学校歯科医との連携と生徒・保護者のモチベーションを考慮すると 5・6 月がよいと考える。次に「歯周病検査」の学校歯科検診へ導入に関しては、約 30 名の集団に対して適切な物品の配布を行うとスタッフ 1-2 名、所要時間 10 分で実施可能なことが示された。しかし、検査費用が 950 円/人となるため自己負担の軽減を配慮すること、生徒の羞恥心の緩和対策をする工夫が必要である。 2) 歯周疾患予防から全身の健康維持に関連する歯科保健活動の展開 「本日の歯科疾患予防の話を帰って話す」といった家族の情報交換をしている生徒は男子が約 5 割、女子 8 割であった。う蝕や歯周疾患は生活習慣と関連があるため生徒を含め家族を単位とした働きかけが必要であるが、伝達内容に性差があることが示唆された。このため、生徒の興味を引くテーマを工夫し、生徒が家庭で話題提供したいと考える授業を展開することが家族の歯科疾患予防に対する理解、協力を深めると考える。今後は、唾液検査を用いた歯科保健活動の指導効果や家族と思春期の子どもの情報交換の変化を検討していきたいと考える。</p>